

令和 7 年度農林水産省行政事業レビュー公開プロセスの結果
持続可能な水産加工流通システム推進事業
＜取りまとめコメント＞

【論点 1 「アクティビティ②の長期アウトカムについて、本事業の成果を的確に検証できるような指標又は、指標の元データとなる調査項目の設問や補足調査を検討することはできないか。」について】

- この事業の中心は、調整保管の実施による供給及び価格の安定化にあると思われる。そうだとすると長期アウトカムにある「困難に直面する割合」というのは非常に定性的であり、必ずしもベストとは思われない。この指標を補完するようなわかりやすい定量的な指標の導入を検討する必要があるのではないか。短期で価格の変動係数を指標化しているので、例えばマーケットにおける供給量に類するもので指標化を検討することはできないか。
- 事業の工夫方法の検討やマネジメント方法などを見据えると、アウトカム長期②の状態をより具体化することが重要と考えられる（具体化は適切な指標設定にも繋がるものと考えられる）。例えば、「水産加工業者が、原材料調達をできていない状態」にも様々な要因が想定されるが、その要因全ての解消を当該事業で解消を目指すものではないものと認識している。世の中に生じているどのような状態を減らすことを目指しているのかを、より整理することが重要と考えられる。
- 事業の中のそれぞれのアクティビティに応じて効果発現の経路が示されていることは評価したい。一方、短期アウトカムから長期アウトカムへのつながりがいまひとつ見えにくい。その間にある課題やボトルネックを踏まえ、また、現在企画している新しいアクティビティ（アドバイザー派遣等）も反映し、さらに効果発現の経路をよく検討しながら、中期アウトカムの設定などを引き続き検討されたい。
- 事業目的は国民に水産物を安定供給していくことであり、国民への安定供給に関わる指標を長期アウトカムとして設定し、加工業者への安定供給は中期アウトカムとして整理できるのではないか。

【論点 2 「アクティビティ③の短期アウトカムについて、アウトプットによる効果が発現するまで長期間かかるので、本事業の成果を早期に検証できるような指標を設定することができないか。」について】

- 指標⑦から⑧、⑨への流れは、時間を要するだけでなくそのロジックが極めて間接的というか見えにくいと思われる。よりロジックが明確な短期中期アウトカムを検討したいところだが、そもそものアウトプットがアウトプットなのでアウトカムの再検討が困難とも思われる。アウトプットからの再検討が必要ではないか。

- アクティビティ③（「さかなの日」の取組等）において、誰の・どのような行動変化を狙っているのかを踏まえて、中期アウトカムを設定することが重要と考えられる。例えば、取組の主たる対象となる方を想定した上で生鮮魚介類の購入量が多い人の要因・少ない人の要因などを検討・調査することが方法として考えられる。例えば、「魚は調理に係る手間暇がかかる・・・」というイメージの転換を図りたいのか、「魚の食べ方が分からない」という状態の改善を図りたいのかを整理することなどが考えられる。
- 指標設定や達成状況に拘泥せず、まずは効果発現の経路をしっかりと検討し、環境変化等に応じて必要な改善が実施されることが肝要である。

【その他】

- アクティビティ①の事業について、どこまで補助対象とするかは再検討する必要があると思われる。ソフト的部分については事業実例をどう横展開するかに工夫が必要。それにより本事業がより有効なものとなるのではないか。
- 全体を通じてロジック・目論見の具体化（ナラティブによる整理を含む）が重要と感じられる。制約も多い中での取組となるが、政策がどのように上手くいくのかという仮説・ストーリーが明確であることが、改善・マネジメントにおいて重要と考えられる。水産加工品の流通のためには重要な取組である。